

第二章 障がいの特性に応じた指導

1 ことばの教室の指導

(1) ことばの教室の対象となる子どもは

通常の学級での学習におおむね参加できている子どもたちの中で以下のような課題がある子です。

発音がはっきりしない 《構音の誤り》

- 発音があいまい。
- ある音が他の音に置き換わってしまう。
(タタナ/魚 クジ/釘 等)
- 子音が省略されてしまう。(サウ/猿 等)
- 歪んだ発音になる。(グィンゴ/林檎 等)

なめらかに話すことが難しい 《吃音》

- 繰り返し 「ボボボボクね」
- 引き伸ばし 「ポークね」
- 最初の音がなかなか出てこない「……ボクね」
- 息継ぎが不自然 「ボ、クね」 など

ことばの理解や表現が幼い 《言語発達の遅れ》

- 表現がつかない。 • ことばがなかなか増えない。
- 相手の話を理解していないことがある。
- 年齢に見合ったことばの使い方ができない。など

音がなかなか出てこないために身体を動かしたり、顔を歪めたりする[随伴症状]を伴うこともあります。

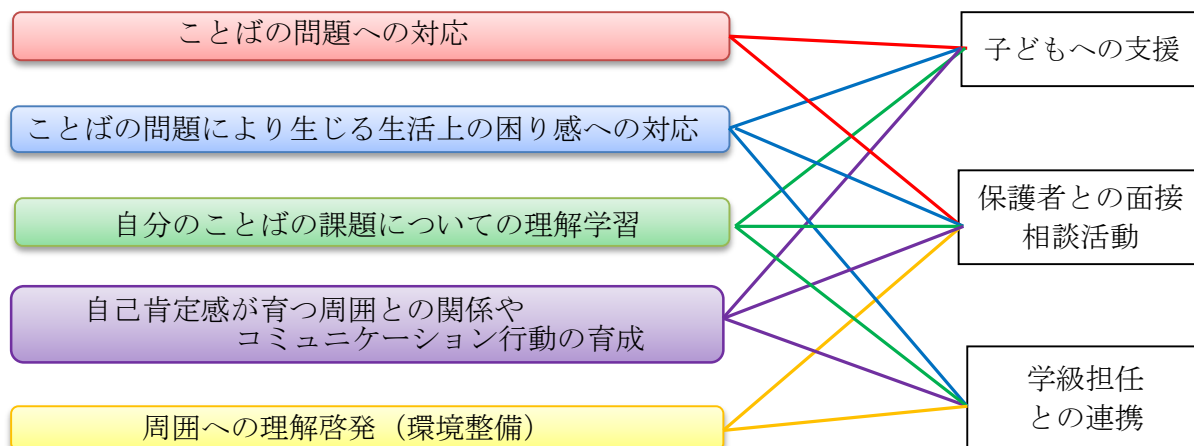
(2) 言語障がいとは

言語障害とは、発音が不明瞭であったり、話し言葉のリズムがスムーズでなかったりするため、話し言葉によるコミュニケーションが円滑に進まない状況であること、また、そのために本人が引け目を感じるなど社会生活上不都合な状態であることをいう。

「教育支援資料」より (文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 平成 25 年 10 月)

(3) ことばの教室での指導について

① ことばの教室の活動内容



②ことばの教室の指導の視点

○子どものことばの問題だけでなく、その原因や背景を見たり探ったりすることで、子どもの状態を多様な側面から捉えます。

(行動観察・諸検査・保護者との面談・在籍学級担任との連携)

○子どもにことばでのやりとりだけを求めるのではなく、表情や行動で互いの気持ちを理解したり伝え合ったりするコミュニケーションの土台作り心掛けをします。

○子ども自身がことばの学習や自身の課題に主体的に取り組めるように、自己肯定感や自尊感情を育てる工夫をします。

③支援の連携

保護者

- ・保護者の思いや不安を十分に聞くこと、そして、それらがどこからきているのか背景を知ることに努めます。
- ・保護者の置かれている状況も理解しながら、個別学習で成長したことを伝えたり子どもに必要なことや協力してもらいたいことをお願いしたりします。
- ・子ども同様、保護者とも気持ちの通い合うコミュニケーションを心掛けることが大切です。

在籍学級担任

年に3回の連絡会があります。

- ・互いの学習場面や生活場面での子どもの様子を見たり情報交換したりすることで、お互いに子どもに対する理解が深まります。
- ・ことばの教室での学習のヒントを得ることができたり、個別学習での配慮を集団学習場面でも活用してもらえたりきっかけになります。
- ・在籍学級の子どもたちへの啓発活動として、通級担当者がことばの教室で行っていることばや聞きとりの授業をすることも、ことばの教室に通う子どもと周囲の子どもをつなぐ取り組みとして有効です。

関係機関

必要に応じて医療機関の受診や他機関への相談を勧めることがあります。

その際には、保護者に受診や相談の目的を理解してもらえようように丁寧な話し合いを心掛けます。

また、受診先や相談先への依頼状を作成します。

④ことばの指導内容

発音指導

- 発音の誤り方を見極めます。
- 正しい発音を聞き取る、聞き分ける力をしっかり育てます。
- 正しい発音の仕方を、身につけやすい方法を工夫しながら習得できるようにします。
- 自分の発音の正誤を聞き分けて、子ども自身が自己修正できるようにします。

新版 構音検査



言語指導

○子どもの「聞く」「話す」「読む」「書く」力について、さまざまな角度から詳しく調べて分析します。



(ひらがな単語聴写テスト付き)



改訂版 標準 読み書きスクリーニング検査 (STRAW-R)



LCSA など

- 子どもの得意なことを使って言語活動を楽しめるように工夫します。
- 子どもが自ら表現したいことを受けとめ、支援します。
- 子どもの表現が不完全であっても、良い聞き手になり、話す意欲を育てます。

吃音指導

- 担当者自らが、吃音について正しい知識を学びます。
- 子どもや保護者の困り感などの情報をじっくり聞きます。
- 子どもが自ら選択したり、自発的に活動できたりするように、関わり方や活動を工夫します。
- 楽な話し方や音読のための様々な方法を紹介し、一緒に練習します。
- 吃音についての知識や考え方を紹介します。
- 保護者とは、情報を交換するだけでなく、吃音についての学習をします。



←吃音支援入門

子どもの吃音ママ応援BOOK



⑤ことばの教室の指導例【45分】

【構音の誤り】

輦	指導内容	◇ねらい	留意点
5分	挨拶 給食や休み時間の出来事などの話を聞く ◇話し言葉の発音の状態、構文をさりげなくチェックする。		子どもの話は楽しんで聞きましょう。
7分	舌や唇の体操 ◇舌の運動や脱力が自在にできるようにする。		BGMを流してリラックス。

【吃音】

輦	指導内容	◇ねらい	留意点
5分	挨拶 今日の給食や休み時間の出来事などの学校生活の話や、休日の出来事の話聞く ◇吃音の状態、随伴症状や工夫の様子等をチェックする。 ◇吃症状の頻度が増していたり、言いにくそうにしている場面を見たりした時には、どう感じているかを質問することもある。		子どもの話は相槌をうちながら楽しんで聞きましょう。

(次頁へ続く)

観	指導内容	◇ねらい	留意点
3分	宿題の確認 ◇前回の指導の定着度を 確認する。		ご褒美のシールを貼ってあげましょう。
2分	今日の目標 ◇自分が何を頑張ればよい のかを自覚させる。		少し低めに設定します。
10分	課題の音の練習 *構音練習に入る前に聞き分けができてい るかきちんとチェックする。 練習のお約束 1)姿勢をよくします。 2)先生の指示に従います。 3)先生の声をしっかり聴きます。 4)自分の声をしっかり聴きます。 5)口をしっかりと動かします。 *単音節→連続音→無意味音節→ 単語(語頭・語尾・語中)→文 の順で		
15分	音読 ことば遊び ◇その日練習した音を意識させる。		練習した音がたくさん出てくる音読教材や、言葉集めビンゴをして聴覚刺激をします。
3分	練習の振り返り 宿題の説明 *保護者にも、今日の成果 と共に宿題内容とやり方 を説明する。		目標は達成できたかな一緒に喜びましょう。 宿題はできるようになったことを忘れないために出します。
	遊び ◇自主性・自発性の育成を図る。 *時間がある時は、保護者も一緒に遊ぶようにする。(運動遊び・卓上ゲーム等)		

観	指導内容	◇ねらい	留意点
約10分	上記以外の話題で話したい事はないか促す。 ◇会話を楽しむ。 ◇相手の話も聞けるように育てる。		話しくさに関する話題が出た時には確実に取り上げて話し合ひましょう。 言いたいことは最後まで話すように促します。
約30分	本時の内容を伝える。 言語課題や興味関心に対応する活動 *ことば遊びや短作文、新聞づくり *工作 絵画 塗り絵 *手芸 *運動遊び 吃音に関する学習 *吃音の学習絵本の読み合わせ *吃音〇×クイズ *吃音かるた 等 話し方に関する練習 *話し始めをやさしくそっという。 *苦しいときはリセットする。 *腹式呼吸 音読練習 *二人で 一人で *速度を変えて *座って 立って 場所を変えて ◇教科書の音読練習をして自信を付けさせる。 ◇いろいろな読み方を試し、吃りにくい読み方を実感できるようにする。	右記の内容を単独またはいくつかを組み合わせさせて	楽しんで読めるような音読教材を用意しましょう。
	終わりの挨拶 次回にやりたいことを聞いておく。		

お勧めの本(入門書)

- 「基礎からわかる言語障害児教育」学苑社 日本言語障害児教育研究会
- 「やさしくわかる 言語聴覚障害」 ナツメ社 小島知幸編著
- 「きこえとことば研修テキスト」 全国公立学校難聴言語障害教育研究協議会
- 「構音障害の指導技法—音の出し方とそのプログラム—」学苑社 湧井豊著
- 「構音指導の実際—正しい音づくりの基本—」盛岡市立桜上小学校編
- 「学齢期吃音の指導・支援」 学苑社 小林宏明著
- 「吃音のある学齢児のためのワークブック—態度と感情への支援—」学苑社 長澤泰子監訳

参考書は多数出版されています。